

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
北部地区	第七小学校	⑤通学距離のみを基準とした場合にメリットがあるように見える案 ⑥少人数教育による、質の高い授業が受けられる。縦割り班による異年齢交流、思いやりが育まれる。 ⑦1学級の児童・生徒数について、小規模ではあるがある程度の人数が維持されることはメリットだと思います。	③黒沢地区の児童生徒は成木ではなく、1小の方が近く、1小へと流れていくと思われる。 ④ひと山越えてわざわざ登校させる。成木も小曾木もほぼ変わりのない児童生徒数なので、成木小での小中一貫校はメリットは考えられない。 ⑤地区の人口を見た時に小曾木地区よりも成木地区の人口が少ない中で成木地区にのみ学校を残すのはあり得ない。 ⑤このような計画決定がされて動いたとしても、小曾木地区の子どもが通学先に成木地区にある学校を選択する可能性が低い。結果、成木地区の小中一貫校への通学者が想定数を大きく下回る可能性が高い。理由として、小曾木地区の文化として出掛ける場合の移動経路は東青梅駅を中心に河辺駅や青梅駅への移動が多い。その中で成木地区に学校があるとしても他地区の学校を選択する可能性が高い。成木地区からの移動経路は小曾木地区を通っての移動が多い。成木地区の人口が多いところには小曾木地区を通り市内へ出るバス路線もあり、通常の移動経路に小曾木地区が入っている。どちらか1つを残すなら小曾木地区とするのが通常と考えます。 ⑤児童・生徒数の基準上の数合わせとしてはあり得る案だが、少人数で立派な教育を行っている現在の七小・六中を見ている中では、もっと少人数教育の良さにも配慮し、小曾木地区に学校を残すべき。 ⑤複式学級に近づく不安は確かにあるが、現在の小曾木地区の教育の素晴らしさを考えると、少人数教育での教育重視の青梅市アピールでの人口減少防止にも取り組んで欲しい。 ⑥大人数による多様性の認識が育つ。 ⑦北部地区については、今回の再編でどこまで維持ができるかが不透明であることもあり北部に学校を残すための別の施策が必要と感じます。 ※市街化調整地域のため、外部からの流入は見込めないが、昨今の不便ではあるが自然と触れ合い生活したい方が増加しています。移住希望の方をの流入を支援し青梅市全体の人口減少を少しでもとどめるため、市街化調整につて少しでも緩和し流入政策をしてもよいのではと思っています。 ⑧児童数が少ないと感じる		⑤通学距離のみを基準とした場合にメリットがあるように見える案 ⑥小曾木からすると一番現実的な距離。 ⑦いただいた資料を基に説明された内容からは、児童・生徒の通学距離・時間から対象家庭が平等に見え、児童・生徒数の推移から容易に算定できるため、住民説明で納得が得られやすい。	②北部地区再編案Aとして成木小学校を選んでいる点がランニングコストが高いものになっている。小曾木の学校を選択すべき。 ②資料2の地区内児童・生徒数の推移で見ても小曾木の方が人数が多いので、小曾木地区の学校を利用の方が通学費用が安くなり、小規模特認校として他地区から通ってもらう点でも小曾木地区の学校を利用の方が通学費用が安くなるのは明らかです。 また、給食の運搬や、学校間の連絡便等のやり取りで見ても小曾木の方が安くなるのは明らかでしょう。 学校の先生や関係者の通勤費用で見ても、どこに住んでる方なのか、今後どこに住んでいる方が赴任されるのかわからないのははっきりとは言えませんが、小曾木の方が安くなる可能性は高いのではないのでしょうか。 前述の費目には青梅市が負担しない費用も含まれている可能性があります、例えば東京都が負担する費用だからといって気にしないでいいものではないと思います。 学校施設を築60年ではなく築70年まで活用するなど毎月・毎年のコストを少なくすることに苦心しているのに、北部地域でどの学校を残すのか検討する際には、その後のコストを比較・検討していないことが、不思議でなりません。とにかく安くということであればB/C案と言われる可能性もありますが、A案を決める中でもコストは検討すべきです。 ②もしくはコストよりも優先すべきものがあるのでしょうか。成木を選んだ理由として言われていた小規模特認校については、場所を決めた後にその学校を特認校にすれば問題ないので、比較項目にはならないです。実際、「達成困難な再編案」に7小を小規模特認校にするものがあるので、7小を小規模特認校にすることは可能なことですし、時間も十分にあると思います。 また、木工がとにかく重要というのであれば、その対応をする際に7小から現地まで子供たちを移動させればいいのではないのでしょうか。どう考えてもその方が普段の通学費用が安くすむので、コストが抑えられるのは明らかです。 それに、どの学校でも独自の活動はあって、優劣をつけるようなものではないと考えます。説明会で説明されていた方も「どの学校が優れているというわけではないですが」というようなニュアンスを言われていたと思いますが、一方で学校を選んだ理由に木工の取り組みが入っているのは違和感を覚えました。 ②成木・小曾木に住んでない青梅市民からしても自分たちの税金が使われる話なので、「どうして安くできる方を選ばずにコストがかかる案にしているのか」、「やめてもらえないか」と言われると思います。教育委員会に勤められている方々も審議会の方々も、自分たちが住んでいる自治体が何かで他よりコストがかかる案を選択していたら、受け入れられないのではないのでしょうか。 ③黒沢の子は峠をこえ成木ではなく、1小、4小の方が近く、そちらに通うと思われる。 ④成木へは徒歩では難しい。バスの本数も少ない。山を越えて北の法へ通わせるメリットは感じられない。 ⑤地区の人口を見た時に小曾木地区よりも成木地区の人口が少ない中で成木地区にのみ学校を残すのはあり得ない。 ⑤小曾木地区に学校を残すべき。小曾木地区の子どもが通学先に成木地区にある学校を選択する可能性が低い。結果、成木地区の小中一貫校への通学者が想定数を大きく下回る可能性が高い。理由として、小曾木地区の文化として出掛ける場合の移動経路は東青梅駅を中心に河辺駅や青梅駅への移動が多い。その中で成木地区に学校があるとしても他地区の学校を選択する可能性が高い。成木地区からの移動経路は小曾木地区を通っての移動が多い。成木地区の人口が多いところには小曾木地区を通り市内へ出るバス路線もあり、通常の移動経路に小曾木地区が入っている。 ⑥バスの本数が少ない。(小曾木の方がバスがある) ⑦資料から児童・生徒が少ない地域への集約することは小曾木地区の対象家庭からの理解を得ることが難しい。また現在も地元には学校があることで就学を機に他地域や他県から小曾木地区に戻ってくる家庭がある一定数あります。さらに小曾木地区では学校がないことで流出がより増加する可能性が高い。また、特定地域選択制を導入することで現在想定されている人数より減少することが考えられます。 理由：黒沢地域や小曾木1・2丁目(厚澤地域)については1小学区や今井学区への通学の方が便利(距離が近いなど)なため成木小に通学するメリットがなくなるため、資料上の人数より減ることが推定されます。※現在も黒沢地域については距離では七小より1小や4小の方が近いが地元である七小へ通学している。 ⑧通学時間が長いと感じる		⑤吉野、沢井、小曾木、成木のような地区は、施設一体型にすることで施設数を減少させながら教育箇所数が維持できる。 ⑤施設一体型にすることで地域特色を出した教育が行いやすい。CSの特色も発揮されやすい。 ⑤施設一体型にすることで中1ギャップの軽減が図りやすい。 ⑦同一施設で9年間通して学習ができる。七小で行っている縦割り班活動と同様に下級生の成長に役立ち上級生は責任感が宿ること。 ⑦9年間通して環境の変化が少ないため中1の1学期(夏休み明け含む)での不登校生徒数が減少する可能性がある。 ⑦施設分離は特に中学生にとって部活動や高校受験時に集中しやすい環境となる。	③寄せ集めで本当にいいのか？逆にゆとりがない学校生活になりそう ⑤施設一体型は先生側の意識改革と慣れのため、一定期間の準備は必要。 ⑤施設分離型は一貫性を持たせることが容易ではなく、施設数も減らず、全体効果が薄い。 ⑦同一施設は小中の区切りがないため、メリハリがなくなってしまう恐れがある。また、中学受験を目指すお子さんの機会を逃しやすくなる。 ⑦小中の各行事が異なるため行事過多となりやすいので行事の精査が必要となり子供たちの経験する機会に影響する。 ⑦施設分離は現在と変わらないためデメリットは特に感じられないが、中学生になった環境変化で不登校になる生徒も変わらない。	④成木で小中学生が一緒に学ぶなら、小曾木と一校ずつにしても良いと思う。分離型は考えられない。 ⑥一体型も分離型もあまり変わらない。 小曾木の7小・6中は現在でもすでに分離型のようだ。小曾木に学校が残るのであれば、一体であろうが分離であろうが、どちらでも良い。 ⑧施設一体型にして、縦割り班を作り、勉学以外で交流をした方がいいと考える。施設分離型では、そのことは難しいと感じる。試験的に運営したらいいと考える。

学校の規模				学校の配置・通学			小中一貫教育			
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
	成木小学校	③一人ひとりの児童・生徒に対して先生が関われる時間が多い ④児童・生徒数は規模を満たさないけど、一人ひとりを細かく指導できる ⑤成木地区に学校が残るといいう地域発展のためには、不可欠	③クラス替えができない、成木小ができて30年、30年経たないうちに同様の問題が出る可能性が高い。 ⑤果たして人数的に集まるか不安は残る。特定地域選択制を導入すれば、小曾木の児童はもちろん成木の児童も北部地区小学校を選ばない可能性も大きい。	①自分が40数年前に青梅10小で初の複式学級を経験し、1クラス5〜7人でした。 そこまで少人数になるとは思いませんでしたが、複式学級にデメリットは感じていませんでした。	①賛成 ③今までより広域になるが、住んでいる地域の学校と思える、地域の特性を活かした教育ができる	③住んでいる地域の学校を希望する可能性が高く場所が決まらないかも。もし、小曾木地区の学校になった場合、成木西部は現第4小学校を希望すると思う（通学時間は変わらない）30年前の成木小統合時にも保護者として考えがあった ⑤公共交通では、あまりに本数が少ないので、スクールバスは必要	④成木の児童・生徒にとってはいいけど、小曾木が納得しないと思う。	④山間部のみなら一体型でもいいと思う ⑤人数が少ないため、小中一貫は特に望ましい。		①北部地域ではいいのでは？今の成木小・7中の関係は合同マラソン等うまくいってるのでは ③やるのであれば施設一体型がいいと思う
	第六中学校	⑦第七小学校⑤と同様の意見 ⑧やはり少人数で手や目が届きやすいと思う	④再編完了前とは想定できるが、令和4年〜令和6年の小曾木地区出生数5名、成木地区9名 平均編入数10名加えても中学校の生徒が24名で成り立つのか不安は残る。 但し、成木地区・小曾木地区に【優良田園住宅制度】を適用し、若年層の移住が進めば生徒数の増加が見込める可能性は残っている。 また、空き家となったまま所有者が貸し出しを拒否している場合等は、青梅市地域一体となって説得し、住民の確保に努めるべきである。（青梅市も税制を優遇する等の方策も） ⑤第七小学校③と同様の意見 ⑥ひと山越えてわざわざ登校させる。 成木も小曾木もほぼ変わりのない児童生徒数なので、成木小での小中一貫校のメリットは考えられない。 ⑦第七小学校⑤と同様の意見 ⑧先細りになるのは目に見えている	②面積は広く人口の少ない北部地区は、地区内の児童・生徒数だけで適正な規模を維持できないので、施設一体型小中一貫校の小規模特認校でお願いします。	④現状のスクールバスの経路に小曾木地区を加えても、そんなに運転手の負担は増えないと思う ⑦第七小学校⑤と同様の意見 ⑧成木のバスが使える	⑤第七小学校③と同様の意見 ⑥成木へは徒歩では難しい。バスの本数も少ない。山を越えて北の方へ通わせるメリットは感じられない。 ⑦地区の人口を見た時に小曾木地区よりも成木地区の人口が少ない中で成木地区にのみ学校を残すのはあり得ない。 ⑦第七小学校⑤と同様の意見 ⑧黒沢は4小の方が良いのでは	②学校の位置・通学に当たっては、北部地区はスクールバス・路線バスを利用する北部地区再編案Aでお願いします。 ④1993年から30年以上に渡って「成木地区小学校教育研究問題研究会」として過疎地域の学校の事を地域全体で検討し、実践してきた成木地区に敬意を払うべきである。	⑦第七小学校⑤と同様の意見 ⑧大人が動かしやすい	⑤第七小学校③と同様の意見 ⑦第七小学校⑤と同様の意見 ⑧本当に一体型が良いのか子供に聞く必要があるのでは	②是が非でも児童・生徒を共有した施設一体型で、小中一貫教育の推進をお願い致します。 ④日本経済新聞によると、1994年以降少子化対策に投じた金額が66兆円超にもかかわらず、出生率に増加が見られない以上、税金の増収は見込めるはずもなく、施設維持費を考えると、『施設一体型』以外は考えられない ⑥成木で小中学生と一緒に学ぶなら、小曾木と一校ずつにしても良いと思う。分離型は考えられない。
	第七中学校	①両校、児童・生徒数が増加が見込めることはないので、必然的に現状より増えるのは望ましい。 ②地元意識に配慮した構成となっている。 ④過去、成木地区3校を統合して誕生した成木小学校。当時の先輩方のご苦労は大変なことだと思っておりますが、時の流れによる益々の少子化も避けられないもの、統合当時には、100人以上の児童数で通学出来ていた実績もあります。そして、小規模特認校のメリットを活かして行けば児童生徒数のひろがりもあるのではないだろうか。 ⑤人数は少ないが、学習面では指導が行き届いてよい ⑥少数精鋭的な学習、指導を受けられる。個人的には北部地区再編案Aがいいと思う	①増加するといえど、成木・小曾木では一時的なことで単学級であることには変わらない ②児童数が少なく、児童数に応じての予算配分だと、結果的に学校運営、児童に対する配慮が出来ない結果となる。また、教職員の数も、児童に依じての配置でなく、ケアが必要な割合は他の学校と変わらないので、職員人数の手配もお願いしたい。 ③地元住民にとって好条件ですが、児童・生徒数の持続性に不安が残ります。 ④少子化、小規模校として児童数、生徒数、学級数の減少は避けられない。 ⑤交友関係が限られてしまうのはどうなのか？9年間も一緒に少ない部活も限られてしまう ⑥他の地区に比べ、生徒数が圧倒的に少ない。小規模特認校を可能としても生徒数を直前まで把握できない。結果、集まらなると複式学級が生じてしまうのでは。仲間と出会うチャンスがなくなり、合わないと孤立してしまう児童も生じるのでは。	①本来の通学区である成木の子には地域的なことを考慮しても良いと思う。 ④成木小学校が、体育館・仲良しホール等新しい施設が充実しているので適切だと思います。通学については、地域に大型車の運行が多いためスクールバスの設置は、助かっていると思う。小中一貫校にしても場所も近いし第7中学校のグラウンドも使える様にしたいと思う。 ⑤成木小はロータリーも広いのでよい、ほとんどの生徒がバス通学になり安全。	①小曾木地区の人はさらに山側へ来ることの不安等あると思う、地域的な意味合いも含む。 ②公共交通を使う前提になっていますが、現状「都営バス」の利用の場合、学校終了時刻などに合わせての運行になっておらず、学校の終了時刻によっては、60〜90分の待ち時間が発生します。この点に関して、どのように考えていくかは必要です。 ④小曾木地区の児童・生徒について、やはり最近の熊出没等により徒歩通学は、止めた方が良い、スクールバスの設置が望ましい。成木周りの都バス運行時間の微調整が出来ればありがたいです。 ⑤公共交通は本数がないので学校のマイクロバスも必要になる。 ⑥成木・小曾木ともその地域ならではの独自の教育も多く、伝統もあり、成木の人は良いと思うが、小曾木の方々は不満が多くてるのでは。保護者による自動車、公共交通の利用を考えても金銭面、時間ロスが相当大きいと思う。		①北部の生徒・児童数減少は顕著で施設一体として学ぶ方が、行事や学習においても一緒に出来ることがあったり、縦のつながりも大切にしていけると思う。 ④自然と上下関係の形態が身に付くのではないだろうか。小規模であれば余裕を持って、きめ細かい学校生活が送れるのではないだろうか。 ⑤スムーズに中学生生活へ移行でき、中学生になっても同じ仲間なので安心。	①分離として当初は良くても、いずれくる人口減少の際、また統合となるかもしれないなら将来を長く見据えて一体型の方が良いと思う。 ④素人目線ではありますが、狭い場所での小学校低学年と中学校生徒の教室を隔てた勉強が難しいのではないだろうか。校庭の広さがもう少し欲しい感じがある。現在、直線100mがギリギリ、1周200mがとれないグラウンドは、中学生にしてはどうだろうか。第7中学校のグラウンドも使えるようには出来ないだろうか。 ⑤9年間同じメンバーで合わない人がいた時逃げ場が少ない、外の刺激や新しい出会いがない。		